

満開のひまわりを見に行きました!



八月九日、笠岡湾干拓地のひまわりを見に行きました。夏の青い空に美しく咲き誇る、10ヘクタールもの広大な「ひまわりじゆうたん」は圧巻でした。



第 20 号

H24 年 8 月 28 日

発行

社会福祉法人東光会

サービスハウス 事務室

TEL084-941-5255



黒い猫 白い帽子
老いて母は 白い帽子よ
健やかにと祈る。

その頃 私は若い母親だった
光陰矢の如し
去りゆく年月の速さ
ふと、白い帽子を思い出した今
大阪八尾市に思いは走る

当時、次男はマラソンの
最終ランナーだった
白い帽子に長い足
女学生に人気があった
今は定年 小会社勤め
便も 途絶えて久しい



中島 榮

思ひ出の白い帽子

蝉 蝉や
それぞれの森
競い鳴き

独歩



蝉 蝉や
蝉の鳴く



中島 榮

二人で暮らした此処が好き
貴方と逢えるその日まで
しばしの日を此処に
八月も早 半ばを過ぎました。

たとえ 嵐は続くとも
私は此処が好き

鈴が峰を仰ぎ 森をしたい
わき水のごとく
清く そして強く

見えずとも 聴こえずとも
まっすぐに歩みたい人の道
語ろうこともないけれど
貴方は生きている この胸に

青い空 白い雲
朝日に輝く 鈴が峰
吹く風 さわやか
森をつたって 木々の香り
泉は澄みて 鏡のごとく
写してみたい心の中

思い出ボロボロ

春日池 独歩

昭和三年(1928)年頃、一本二銭のアイスクーキの出来たお話です。

処は、阪神国道の沿線に本山村字森という片田舎がありました。

この村に住むお婆さんが、まだ誰も考えていないアイスクーキを作ってみようと思いついたのです。

大した大儲けの出来る程の話題ではありませんが、他人の考え付かない事をしようときめてかかりました。

当時としては、この森には珍しく国道沿いに大型の二棟続きの市場が出来ていたのです。

この市場の傍らにお婆さんの屋台店の車が置かれていたのです。アイスクーキ屋の始まりでした。

どのような仕組みにしていたのでしょうか？ 見せてもらいました。

車の中一杯のトタン作りの水槽が置かれていました。中に水を入れ、氷のかち割をいっばいに浮かせていたのです。どれくらい温度が下がっていたのでしょうか。

お婆さんは手を入れて冷え加減を調べていましたが満足したのではありません。

水槽の上面には沢山の試験管の通る穴があげられていましたが、穴の数



は分かりませんでした。アイスクーキになるには、試験管にミカン水、レモン水を程良く入れて、割り箸の半分を一本冷凍水槽に入れるのです。

アイスクーキに凍るまでの時間が問題でしたが、案外早く凍ってくれましたので一安心でした。試験管の箸を持ち上げますと、箸に凍りついたままのアイスクーキが出来上がっていました。外気に触れて中を抜くと、アイスクーキが箸についたこの姿、これが一本二銭のアイスクーキでした。

未だ誰も知らないアイスクーキを世に知らしめた皮きりと言っているのではないのでしょうか。この頃、子供たちは着物を着せられていたのです。

この世に出たアイスクーキ、一本二銭のお話、お婆さんも屋台店を元気に守っていることでしょう。



現在の進化したアイスクーキです



ゴミ出しについてのお願い!

サービスハウス通信十六号で、ゴミの分別をお願いいたしました。

その後、皆様のご協力によりゴミステーションは、随分きれいになりました。

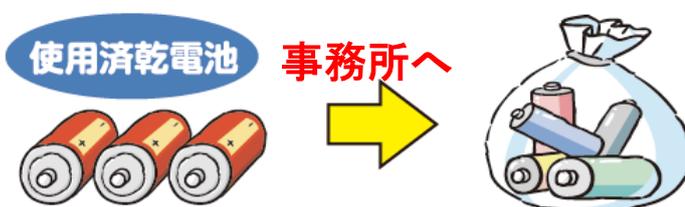
が、中にはゴミをそのまま出される方が居られます。必ずナイロン袋に入れて下さい。

また、使用済みの乾電池は、事務所までまとめて処分しますので事務所に持参下さいます様お願いいたします。

袋はごみでいっばいにするようにお願いします!



リサイクルしやすくするためにも、袋の中に小さな袋を入れないようにしてください。



お知らせ!



八月十六日から、赤木看護師が、サービスハウススタッフの一員になりました。これまでは、時々皆様の健康状態を見に来る程度でしたが、今後は職員として皆様の健康に関するお手伝い出来るようになります。健康に関するご相談など、お気軽にいつでもご相談下さい。

よろしくお願いたします。

残暑の厳しい日々が続いています。

体調管理が大変だと思えますが、もう少しの間頑張りますよ!

夕暮も早くなり、夜になると虫の音も聞かれるようになりまし。

涼しい秋の訪れももうすぐです。

河村

